

(始良郡福山町大字佳例川字一本松)

### 位置と環境

遺跡は牧之原の中心部から北東に1.5km離れた、内場自治公民館近くの標高300mの台地上に立地している。台地は北側を西流する佳例川とその支流に開折された比高差約70mの谷に挟まれている。県道大川原～小村線沿いには、赤松段遺跡が所在する。

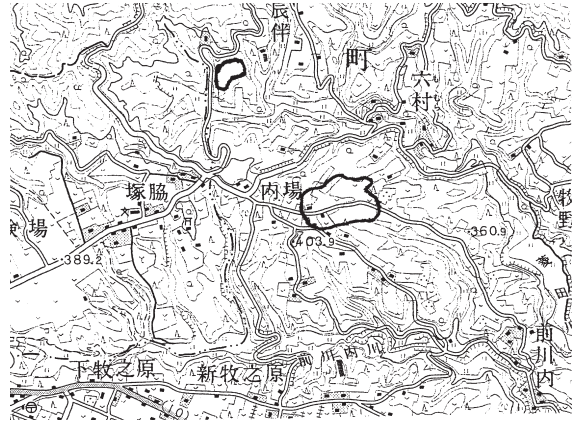
### 調査の経緯

町道前川内塚脇線道路整備事業の建設に伴って、福山町教育委員会が平成9年に確認調査、平成10年に本調査（約1,600㎡）を実施した。

### 遺物

調査の結果、IV層より約6万点の遺物が発見された。遺物は縄文中期を中心に阿高式（写真1）・大平式（写真2）・岩崎式・南福寺式・協和式・出水式等の土器、石鏃（第2図6～10）・石斧（第2図3～5）磨石（第2図1・2）・石皿等の石器が出土した。阿高式土器は、太形凹線文（ふとがたおうせんもん）と呼ばれる、曲線や直線を組み合わせた文様を器全体に描いている。

石器については、植物を採取するための石斧や加工するための石皿・磨石などの生産道具が多く出土している。



第1図 一本松遺跡の位置

### 特徴

本遺跡は、縄文時代中期を中心に遺物が多数出土しており、鹿児島県では中期の遺跡は少なく、一つの遺跡においても多量の遺物が出土する例は極端に少なく、縄文中期の重要な考古資料ではないかと思われる。

### 遺跡の現状

遺跡の現状は町道前川内塚脇線道路建設のため失われたが、それ以外は畑地であるため、残存している。

### 資料の所在

出土遺物は、福山町教育委員会に保管されている。

### 参考文献

福山町教育委員会2003「一本松遺跡」『福山町埋蔵文化財発掘調査報告書』4

(吉留道幸)

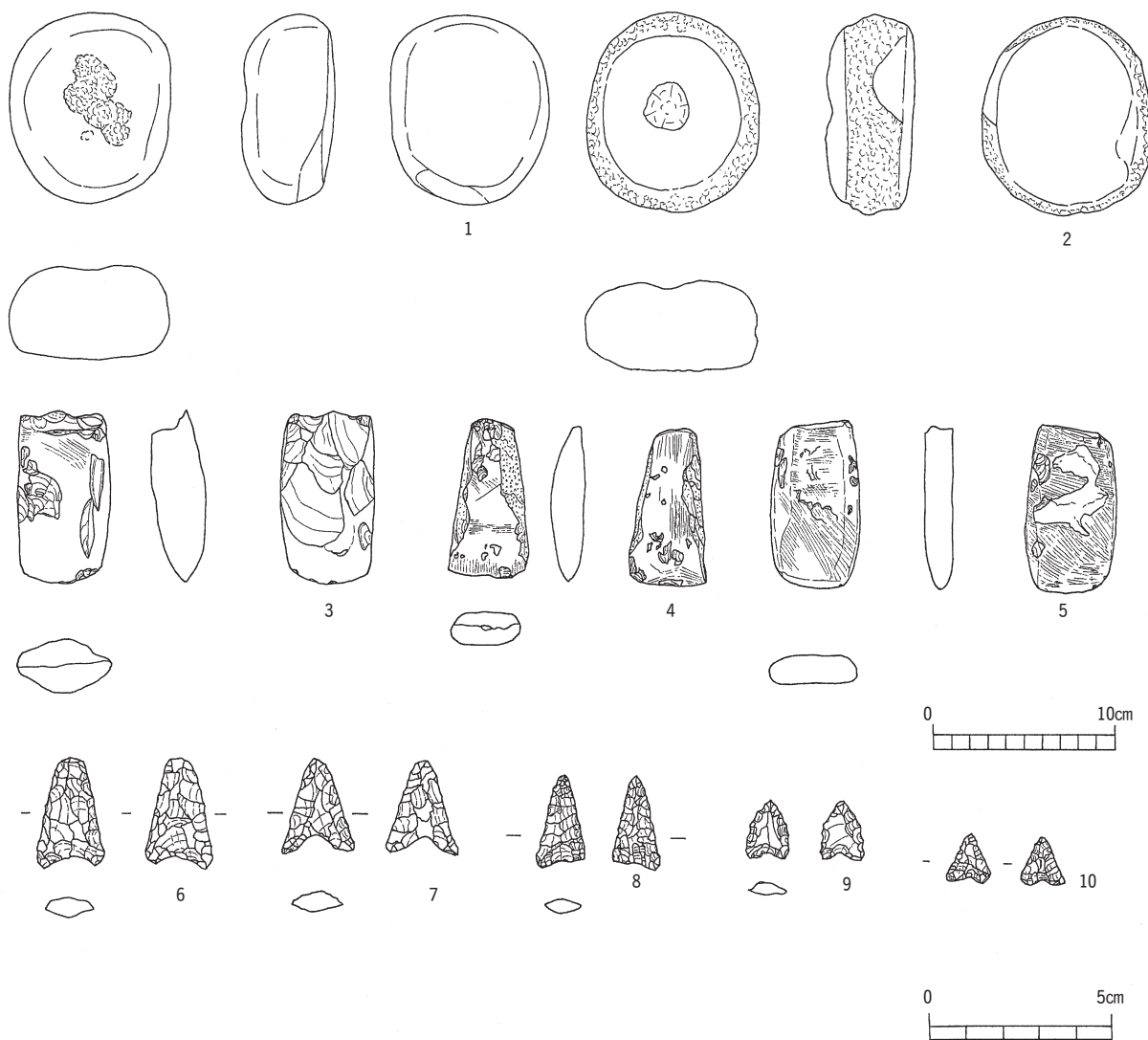
|       |                                     |
|-------|-------------------------------------|
| I 層   | 現耕作土                                |
| II 層  | 文明ボラ（1,476年頃の桜島起源の軽石）               |
| III 層 | 黒色土                                 |
| IV 層  | 縄文時代後期の遺物包含層                        |
| V 層   | 御池火山灰層（約4,200年前・霧島起源）<br>縄文中期の遺物包含層 |
| VIa 層 | 橙色火山灰層（アカホヤ2次堆積物）                   |
| VIb 層 | アカホヤ火山灰層（約6,400年前の火山灰）              |
| VII 層 | P11（約7,500年前の桜島起源の火山灰）              |
| VIII  | 乳白色層                                |
| IX 層  | 黒褐色土                                |
| X 層   | 薩摩火山灰層（約11,500年前の桜島の火山灰）            |



写真1 阿高式土器



写真2 大平式土器



第2図 出土遺物